

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501084		
法人名	有限会社 北海道ふれあいの家		
事業所名	グループホーム ふれあいの家・月寒		
所在地	〒062-0041 札幌市豊平区福住1条1丁目9番24号 (電話) 011-857-2011		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供票より】(平成21年10月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~55,000 円	その他の経費(月額)	11,000~16,000 円
敷金	有(家賃1ヶ月分 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要 (10月16日 現在)

利用者人数	7名	男性	0名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	2名	要支援2		0名	
年齢	平均 81歳	最低	72歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏葉脳神経外科病院 小笠原医院 日の出歯科診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、広い庭のある一般戸建住宅を改造した建物を利用し、地下鉄福住駅より徒歩3分で交通の便にも恵まれている。庭では四季折々の花や野菜を植え、草花の手入れなどを通して五感を刺激することにより、季節感を意識的に採り入れており、庭仕事は利用者の大きな楽しみ事の一つとなっている。職員は利用者一人ひとりの能力を引き出し、これまでの暮らし方や役割が継続できる喜びや達成感を得ることができるよう支えている。理念である「~安全で安心していただける介護サービス~」の実現に向け、代表者、職員が一体となってチームケアの実践を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は無かった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめているが、評価結果については、全職員での協議、検討はしておらず、内容を共有化するまでには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目外部:4、5、6)
	運営推進会議では、事業所の現状や活動内容、利用者の暮らしぶり等を報告してはいるが、不定期な開催であり、地域住民の出席も少ない。このため、運営推進会議を定期的開催し、意見や協力が得られるような討議内容となり地域との連携を深める取り組みを検討中である。前回の会議では事業所の現況報告のほか、音楽療法士による講演、新型インフルエンザについての説明などが行われた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	「ふれあい便り」を発行し、利用者の日常生活や事業所の状況が家族に伝わるように努めている。また、家族の来訪も多く、その都度職員は家族の意見、要望などに耳を傾け、個々の希望に沿えるよう事業所全体で積極的に取り組み、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所として町内会に加入しており、清掃活動、敬老会、子供みこしなどの地域の行事などには、職員が利用者とともに参加している。散歩や買い物に出かけた折には、近隣住民と挨拶や声かけを行っている。事業所の行事にも近隣住民に声かけし、地元の人達との積極的な交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安全で、安心な生活」を基本に事業所独自の理念を作り、ケアサービスを行っている。2006年4月の介護保険制度の改正後、地域密着型サービスとしての果たすべき役割を反映した理念となっているか等の見直しは行っていない。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示し、常に目に触れるよう工夫し、「安全で、安心な生活」を日々念頭に置きながら、理念の実現に向け取り組んではいるが、職員全体での理念の共有化は図られていない。	○	ケアの統一を図る上でも、理念の掲示だけではなく、日々のサービス提供において理念が反映されているか、職員間で日常的に話し合って確認し、全職員に確実に浸透させて行くことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所として町内会に加入し、利用者が参加できる清掃活動、敬老会、子供みこしなどの町内行事へは積極的に参加している。散歩や買い物などの時も近隣住民との挨拶や声かけを行い、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長及び管理者、職員は、評価の意義を理解し、自己評価に取り組み、さらに、外部評価を受けることで、一層のサービスの質の向上に努めてはいるが、全職員による話し合いを行うなどの共有化を図る取り組みにはなっていない。	○	今後、サービス評価の意義や目的を再考し、職員の意識の共有化を図り、ケアの振り返りや見直しに繋げていくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の現況や活動内容についての報告、音楽療法士による講演などを行っているが、全体的に会議の内容が事業所の「報告会」に留まり、サービス向上に活かされる討議内容とはなっていない。また、定期的に会議は開催していない。	○	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための重要な機会であり、地域住民、利用者、家族、行政担当者等、幅広い立場の人達が積極的に参加する働きかけが大切である。地域密着型サービスの充実、サービスの質の向上など、建設的な話し合いの場が定期的に持たれる取り組みが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、利用者の実情に合わせた相談や、情報交換などを行い、連携を取りながらともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来訪する家族は多く、その都度、利用者の日々の暮らしぶりや身体状況などを伝えている。毎月、金銭管理報告も行い、その内容を確認してもらっている。事業所内の状況などを伝えるため「ふれあい便り」を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で、内部、外部への苦情相談窓口を明示し、事業所内にも掲示している。来訪時や電話連絡の際には、家族から意見、要望、不満などを聞き、事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、なじみの職員による利用者への支援の重要性を理解しており、職員異動や離職をなるべく抑えるように積極的に取り組み、利用者にも与えるダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及びホーム長、管理者は、職員育成の重要性を認識し、段階に応じて研修の機会を確保、提供している。研修後は研修報告書を作成し、内容の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やグループホーム連絡会を通して、管理者同士での交流は行っているが、一般の職員の交流によるネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を行うまでには至っていない。	○	同業者との交流やの意義を理解し、職員の見学や交換研修、勉強会などの活動の機会を持つことを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前、本人や家族が見学する機会を設け、意見、要望などを聞き、本人が安心と納得のいくサービスが利用できるよう、家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は支援する側、される側という意識を持たず、人生の先輩として敬う気持ちを大切にケアサービスを提供している。知識や経験豊富な利用者の生活歴などから、庭仕事、料理、生け花、ピアノ等の出来る事、得意な事を見出し、ともに学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の基本情報を踏まえた上で、日々の会話や表情を注意深く観察し、その意向や希望を推し測り、把握に努め、利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の介護記録をもとに、一人ひとりの課題や、本人、家族の意向、要望などを聞き利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度、定期的に見直しを行っている。日々のケア記録や申し送りの中で、身体状況に変化があった時は、本人、家族と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や要望に応じて、事業所の車を活用した行事参加、通院送迎、温泉への外出、買い物など、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得した上で、協力医療機関と連携し、定期受診や訪問診療、訪問看護を受けている。緊急時には24時間相談でき、適切な医療が受けられる体制である。家族の要望による職員同行の受診も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として、重度化した場合や、終末期ケアは実施しておらず、利用者及び家族には利用開始時に説明し理解、同意が得られている。協力医療機関との連携を図り、日常の健康管理や緊急時への対応が円滑に取れるよう、職員間で情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活歴を踏まえ、プライドを傷つけない言葉遣いや対応に心がけている。記録の保管など、その取り扱いも適切に行っている。利用開始時に、個人情報の取り扱いに関する説明も行い、同意書も得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者一人ひとりの思いや事情を考慮し、常に利用者本位のペース、自己決定や選択が損なわれないよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力に応じて、食事の準備や配膳、片付けなどの一連の作業を利用者と職員がともに行っている。誕生日や行事には希望の献立を作成し、職員とともに楽しい食事が出来るように支援している。事業所は、手作りを基本にしており、既製品の使用はほとんど無い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はあるが、概ね週2回の入浴を基本に支援している。利用者の日々の身体状況を判断しながら、シャワー浴や清拭も行っている。利用者が気持ちよく入浴できるよう、入浴の抵抗感にも配慮した言葉掛けやタイミングの工夫に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や身体状況を見守りながら、料理の手伝い、後片付け、ピアノ演奏、生け花などのそれぞれ得意な事、興味のある事を引き出し、日々の生活の中に喜びや生き甲斐が持てるよう支援している。庭での花の手入れや野菜作りは、利用者の楽しみ事の一つである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、利用者の一人ひとりの希望に沿って、散歩や買い物、温泉入浴、町内行事への参加など、事業所に閉じこもらないよう外出する機会を設け支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	概ね午後7時から午前7時までは防犯上の理由で施錠しているが、日中は玄関を開放している。玄関周りにはセンサーを設置し、居間には玄関周り、庭が見えるモニターを取り付け、鍵をかけない工夫をしたケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡網、防災対策マニュアルを作成し、消防署と連携を取り避難訓練を実施しているが、町内会や地域住民との協力体制を築くまでには至っていない。	○	夜間、職員は一人であり、身体の重度化が進む利用者もいるため、地域の協力体制は不可欠である。運営推進会議等の機能を活かし、現在実施されている避難訓練に加えて、積極的に地域住民の協力が得られるような取り組みが期待される。また、非常用食料や備品の準備も望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作り品を重視した献立を作成し、バランスの取れた食事内容となっている。食事量や水分量は個々の記録に残し、一人ひとりの身体状況に合わせた適切な支援を行っている。糖尿病の利用者が、利用開始時より身体状況が改善され、投薬の必要が無くなった例もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の多くは居間で過ごしており、陽射しや温度は適度に調節している。共用空間は明るく、風通しもよく、手作りの季節の飾りつけや花が生けられ、家庭的な雰囲気と季節感を意識的に採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れたなじみの家具や装飾品、写真、手作り品、仏壇等を持ち込み、一人ひとりの好みに応じた環境の中で、居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。